

# 文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽  
応援団通信

第35号

2019.7.20



かなでほんちゅうしんぐら  
『仮名手本忠臣蔵』 祇園一力茶屋の段

文楽応援団ホームページ  
<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団 検索

文楽応援団ツイッター  
<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

QRコードはこちら



HP



Twitter



## 文楽応援団の自己紹介 Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです  
**おもな活動内容は**

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
  - ②資料展示室における文楽関係展示品の解説
  - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
  - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- その他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

かなでほんちゅうしんぐら  
『仮名手本忠臣蔵』  
山科閑居の段

## 『お客様に楽しんでいただくために』

国立文楽劇場部 事業推進課長

功<sup>く</sup> 刀<sup>ぎ</sup> 崇<sup>たか</sup> 好<sup>む</sup>

初春文楽公演『壺坂観音霊験記』の上演にあたり、昨年十二月に奈良県高取町の壺坂寺などのゆかりの地を巡るバスツアーを開催しました。

壺坂寺の納め観音の縁日に合わせてバスツアーの日程を設定し、普段は見ることでできない秘仏の公開、ご住職の法話など、参加者の皆様に楽しんでいただけるよう工夫しました。土佐町にあるお里・沢市の墓所を訪ねた後は、JAならけんの運営するまほろばキッチンに立ち寄りしました。多くの参加者の皆様が、嬉しそうに野菜、果物、お土産などの買い物をしていらっしゃいました。

このバスツアーは文楽劇場友の会員様向けイベント「文楽のつどい」の一環です。会員の皆様に、文楽により興味をお持ちいただき、イベントを楽しんでいただきたく、定期的に講演会やバスツアーを開催しています。

さて、展示室での文楽応援団の皆様への解説は、展示室をご覧になるお

客様には欠かせないものとなりました。展示を見るだけでなく、解説を聞いたり、体験コーナーに立ち寄ったりすることで、より楽しんでもらえると思います。お客様に楽しんでもらうことは、バスツアーなどと同じように文楽や文楽劇場のファンを増やすためにはとても大切なことだと感じています。

四月から五月にかけて行った特別企画展示「文楽の世界」では、約一万六千八百名の来場者がありました。そのうち解説の聴講者は九千三百二十八名とご報告いただきました。解説者数の二百六十二名で単純に割算をしますと、解説者一名あたり約三十六名のお客様をお話をしていることになりま（ともにのべ数なので、実際にはもっと多いと思います）。この人数の多さにとっても驚きましたし、多くのお客様に楽しんでもらっていると心強くもなりました。

文楽応援団の皆様のご活動によって文楽や文楽劇場のファンが増えていくことと思います。そのような皆様の活動に対して、改めてお礼を申し上げるとともに、今後とも、ご支援・ご協力いただけますよう心よりお願い申し上げます。

## やっぱり文楽はやめられない！

其の三十

### 『文楽との付き合い方』

横山 彰 乃

今年も、夏休み特別公演の季節がやってきました。連日のように猛暑日が続く大阪の夏。うだるような暑さ。そんな暑さにも負けないくらい熱さを毎年、特に第一部親子劇場では、客席で感じる私です。この親子劇場は、お子さんにとって、初めての文楽“になることも多いのではないのでしょうか。だからなのかもしれないですが、劇場がকাশ出す空気も心なしか、普段より高めに感じられるのです。

昔々の言葉の意味は分からなくても、耳に心地いい義太夫節のリズム、時にコミカルな三味線の音、真に迫る人形の動き……。理屈ではなく全身を目と耳にして味わうお子さんを見てみると、色眼鏡や「知識」で理解する年齢になる前に、こういう出会い方をしている幸福だなあ……。と思います。私の場合は「何が話されているか理解したい」から始まったので、はじめの頃は忙しかったです。なにせ、まずこれは日本語なの！という衝撃です。しばらく文楽に通っても、何が話されているのか全く理解できませんでした。字幕や床本を

追いかけて耳を傾ける。すると分かる。目を外してみる。全く分からない。並行して人形を追っかけて床を見て耳にはイヤホンガイド。とてもじゃないけれど、ゆったり味わう余裕なんてありません。（もちろん、それはそれで楽しんでいますが）そういう訳で、人形の繊細な動きや三味線の豊かな音、そして太夫の自由自在な声色の深みを、しっかりと味わえるようになったのは、つい最近のことです。ですから、理屈ぬきで舞台を味わえるお子さんが羨ましい……。というところは多分にあり、私にとっては、純粋な楽しみ方を改めて教えてもらう機会でもあります。

とは言っても、入り方やタイミングは人それぞれで、好きなポイントもたくさんあると思います。物語としても、筋がだいたい予想できる現代ドラマとは違い、何度見ても見飽きることはありません。今の我々と文楽の世界では世の中の常識が違うからでしょうか。当時の人びとに思いをはせることで、知れば知るほど、見れば見るほど新しい発見があり、さらに引き込まれます。

さて、今年は何人の文楽デビューに出会えるのか。その子たちは文楽のどんなところを好きになるのか。とっても楽しみです！

「やっぱり文楽はやめられない！」

## 最近の活動風景

### まち歩き



「植村文楽軒 132 年忌お墓参り(遊行寺)」(2019.2.16)



「江戸時代の大坂三郷惣會所跡めぐり」「大阪くらしの今昔館見学」(2019.6.2)

### 解説風景

#### 4 月文楽公演での解説風景



「陽だまりの会」より解説依頼 (2019.2.14)

## 文楽応援団 東西と一ざい

- \* 吉田和生さんが、平成 30 年 11 月第 53 回「大阪市民表彰 文化功労部門」として表彰されました。
- \* 豊竹呂勢太夫さんが、平成 31 年 3 月第 69 回「芸術選奨文部科学大臣賞」を受賞されました。
- \* 鶴澤寛太郎さんが、平成 31 年 2 月第 36 回「咲くやこの花賞」を受賞されました。
- \* 吉田和生さんが、令和元年 5 月「旭日小綬章」を受章されました。
- \* 「にっぽん文楽 in 明治神宮」が開催されました。  
期間：2019 年 3 月 9 日（土）～ 3 月 12 日（火）
- \* 【ムム！文楽シアター】「古典芸能 春 LIVE」がビルトフ ライト（大阪市）で開催されました。  
期間：2019 年 3 月 1 日（金）・3 月 3 日（日）
- \* 六世竹本土佐太夫追善人形浄瑠璃文楽公演が、安田町文化センター（高知県安田町）で開催されました。  
日程：平成 31 年 3 月 21 日（木・祝）
- \* 「うめだ文楽」がレッジ シアター（グランフロント大阪）で開催されました。  
期間：2019 年 3 月 29 日（金）～ 3 月 31 日（日）
- \* 応援団 HP 来場者数が 109,526 人、文楽応援団ツウターのフォロワー数が 2,600 人になりました。（2019.7.6 現在）
- \* 次回公演予定  
東京：令和元年 9 月 7 日（土）～ 9 月 23 日（月）  
大阪：令和元年 11 月 2 日（土）～ 11 月 24 日（日）  
※11 月 13 日（水）は休演

## DEAD HEROES

Japan's most famous epic, *Kanadehon Chūshingura*, honors the 47 faithful retainers who sacrificed their lives to avenge the mistreatment of their lord. It is said to take feudal loyalty as its theme, but primarily it focuses on the beauty of death, and the unwavering drive towards death by all heroes.

The heroes in this play all hanker after death, preferably by *seppuku* ritual suicide. The 47 know they will be required to die by *seppuku* if they fulfill their vendetta. Heiemon and Gihei long to join them. Honzō chooses to die for the cause although he serves a different master. The lord of the 47, Enya, himself commits *seppuku*; and when this scene is played in bunraku, no one is allowed to enter or leave the hall during its 54 minutes, so sacred is it considered. Yet Enya has shown contempt for the shogun by offering violence in his palace; and the 47 show contempt for the shogun's judgment against Enya by their very pursuit of the vendetta. Their unlawful secrecy compounds their offense, since it does not give their enemy a chance to defend himself. Yet they are

heroes. Heroes are defined by death. Death is the ultimate privilege.

This worship of death lasted into the modern period. Censorship laws during World War II forbade combat films to depict realistic death. Usually the hero's demise is not pictured, but announced by others. In "Tank Commander Nishizumi"<sup>1)</sup> (1940), death is just a graceful hand sliding down the side of a tank. The beauty of death is reflected in its well-worn traditional symbol, the cherry blossom. Indeed, during the war the euphemism for the dead was "fallen blossom."<sup>2)</sup> The death of a doll is neat and pretty, to be sure, but it is a real death. The puppeteers arrange Enya carefully, then abandon him and leave the stage. They take away his life. They leave him just a heap of wood and rag. They well and truly kill him.

Faith Bach  
Earphone Guide

1) "Tank Commander Nishizumi" 『西佳戦車長傳』  
2) "fallen blossom." 散華

- 1/ 3 初春文楽公演初日。鏡開き。展示室解説、演目解説など、25日まで。  
文楽応援団通信第34号、3,000部発行。
- 2/14 「陽だまりの会」より解説依頼。17人。担当:荒木・大垣・岡持・榊田・藤田(由)・油田(梧)。
- 2/16 【スタッフ会議】 出席:8人。  
【まち歩き】 参加:8人。「植村文楽軒132年忌お墓参り(遊行寺)」。
- 2/22 【第1回研修会】 前日準備。世話人:安藤。
- 2/23 【第1回研修会】 出席38人。「初春公演総括」「新団員紹介」  
「学習会」「文楽を楽しむEnjoing Bunraku」鑑賞。  
「今期スタッフ等を選出・決定」。  
スタッフ:荒木・今井・榊田・関口・高橋・前川・村上(朋)・油田(梧)・安藤。  
文楽応援団HP委員:榊田・油田(梧)・荒木・安藤。  
文楽応援団通信編集委員:荒木・大垣・長・折井・安藤。  
学習会・勉強会委員:今井・榊田・前川・安藤。  
文楽公演演目見どころ解説担当委員:藤田(敏)。  
文楽応援団活動写真バッチ作成委員:荒木・村上(朋)。  
折り紙担当委員:柴多・関口・油田(梧)。  
まち歩き企画担当委員:高橋。  
出前解説担当委員:前川。  
イベント担当委員:榊田。  
バッチ担当委員:荒木・関口・安藤。  
報告書発送担当委員:荒木・安藤。  
【勉強会】「江戸時代の大坂の油事情について」講師:今井。  
「江戸時代の髪型のこと」講師:安藤。
- 3/ 4 【第1回研修会】 報告書発送事務作業。世話人:荒木・安藤。
- 3/ 9 【スタッフ会議】 出席:8人。
- 3/15 【第2回研修会】 前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 3/16 【第2回研修会】 出席:42人。解説日程調整。  
「4月文楽公演 演目説明、見どころ解説」担当:藤田(敏)。  
「折り紙教室」担当:関口。
- 3/18 「4月文楽公演 演目レチャ」講師:国立文楽劇場企画制作課。参加:17人。
- 3/25 【第2回研修会】 報告書発送事務作業。世話人:荒木・安藤。
- 4/ 5 【文楽応援団活動写真バッチ作成】 担当:荒木・村上(朋)。  
4月文楽公演 解説の準備。世話人:安藤。
- 4/ 6 文楽応援団登録証伝達式。農端支配人より授与される。出席:39人。  
4月文楽公演初日。展示室解説、演目説明など29日まで。  
【バッチ】 第1回打合せ。出席:2人。
- 4/19 【文楽応援団通信第35号】 第1回編集会議。出席:4人。
- 5/11 【スタッフ会議】 出席:7人。  
【バッチ】 第2回打合せ。出席:2人。
- 5/18 【第3回研修会】 出席:42人。「4月文楽公演総括」。  
「折り紙教室」担当:油田(梧)。  
「学習会」「4月文楽公演を観て」発表。  
【勉強会】「江戸時代の大坂の町の構造について①」講師:前川。
- 5/29 【第3回研修会】 報告書発送事務作業。世話人:荒木・安藤。
- 6/ 2 【まち歩き】 参加:12人。「江戸時代の大坂三郷(北組・南組・天満組)惣會所跡めぐり」  
「大阪くらしの今昔館見学」。
- 6/ 3 「大阪区民カレッジ」講師についての相談(文楽協会 西原氏と)。担当:安藤。
- 6/ 6 「大阪区民カレッジ」小山氏・飯沼氏と打合せ。担当:安藤。
- 6/18 【文楽応援団通信第35号】 第2回編集会議。出席:3人。
- 6/22 【スタッフ会議】 出席:8人。  
【バッチ】 第3回打合せ。出席:3人。
- 7/ 5 【第4回研修会】 前日準備。世話人:荒木・安藤。  
【文楽応援団通信第35号】 第3回編集会議。出席:2人。
- 7/ 6 【第4回研修会】 出席:36人。夏休み文楽特別公演解説日程調整。  
「夏休み文楽特別公演 演目説明、見どころ解説」担当:藤田(敏)。  
「学習会」「菅原伝授手習鑑 比叡山の段」を読む。担当:羽田。  
【勉強会】「江戸時代の大坂の町の構造について②」講師:前川。
- 7/13 【第4回研修会】 報告書発送事務作業。世話人:荒木・安藤。  
「夏休み文楽特別公演 演目レチャ」講師:国立文楽劇場企画制作課。  
【文楽応援団活動写真バッチ作成】 担当:荒木・前川。
- 7/19 夏休み文楽特別公演 解説の準備。世話人:安藤。
- 7/20 夏休み文楽特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月5日まで。  
文楽応援団通信第35号3,000部発行予定。

## 文楽公演

令和元年10月

## 地方公演スケジュール

【主催】文楽協会【後援】文化庁

## ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『<sup>しょううつしあきがおぼなし</sup>生写朝顔話』「明石船別れの段」「笑い葉の段」「宿屋の段」「大井川の段」

【夜の部】「解説」『<sup>ひらがなせいすいき</sup>ひらかな盛衰記』「松右衛門内の段」「逆櫓の段」『<sup>ひだかわりあいざくら</sup>日高川入相花王』「渡し場の段」

### 地方公演チケットお問い合わせ先

10月 2日 (水)	JMS アステールプラザ (広島県広島市)	082-244-8000	10月13日 (日)	神奈川県立青少年センター(神奈川県横浜市)	045-263-4475
4日 (金)	名古屋市芸術創造センター(愛知県名古屋市)	052-249-9387	14日 (月・祝)	高山市民文化会館(岐阜県高山市)	0577-33-8333
5日 (土)	徳の国とよはし芸術劇場 PLAT(愛知県豊橋市)	0532-39-3090	15日 (火)	富山県教育文化会館(富山県富山市)	076-441-8635
6日 (日)	グランシップ(静岡県静岡市)	054-289-9000	17日 (木)	電力ホール(宮城県仙台市)	022-714-1022
10日 (木)	札幌市教育文化会館(北海道札幌市)	011-271-3355			

## 文楽応援団通信 第35号 2019年7月20日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5542(直通) FAX06-6212-1202